

ふれあいと語らいの同窓会



東実同窓会報 NO.2

発行 〒144 東京都大田区西蒲田8-18-1 TEL. 03-3732-4481

東京実業高校同窓会編集委員会

バカ同志の卒業生



会長 村松 濱代



時代は変わり時勢は非常な早さで動いております。時の流れに遅れまいと必死に追いすがろうとしても私のような戦前派の人間には容易なことではありません。孫の遊び方一つを見ても遊び道具、遊びの仕方、遊びの友達がことごとく変わり、私達の子供の頃の遊びぐさなど全く遠い過去のものとなってしまいました。それは子供達の意志ではなく周囲の環境の変化によるもので、その原因は遊びの場所の無い事、交通事情の変化、自然環境の変化、経済的な家庭の変化、入学試験への親の考え方等々であり、子供達の考え方も生活環境の変化によって時代と共に相当な勢で変わりつつあり、特に中学、高校の年齢層の思春期である生徒の教育に携わる先生方の学問的な教育や、これから社会人として育てる躰の仕方など教育者としての理念は生やさしいものではないと思われまます。

私の育った時代、それは物の貴い鉛筆一本も無駄に出来ない貧しい時代であり、キャラメル一箱を五人の兄弟で分けて食べた時代でもありました。支那事変、第二次世界大戦と戦火は拡大し、そして海軍飛行科予備学生に志願入隊、苦しい海軍の訓練の日々を過ごし戦死することを当然の事と覚悟していましたがところ幸にも戦に破れ終戦となり今日に至り、自分ではまだまだ若い考え方の一人だと自負しておりますが、やはり今の時代の人々とは相当な開きがあるようです。その私が母校の同窓会の会長をしておることに何か矛盾を考えさせられます。しかし同窓会は各時代の卒業生が会員となり、古い人、新しい人が混同し上下の隔たりなく親睦に努め、母校を有形無形に応援することが目的であり、現代の卒業生には興味もたれないかも知れませんが、同じ学校を卒業した先輩後輩と同窓会を通じて交際することは人生にとって非常に豊かな心情を与えてくれるものです。

今年も486名の卒業生が入会することになりますが、同窓会の中に融けこんで、あるいは先輩の人生観や、その人の人となりを聴くことも若い人にとって大変勉強になるのではないのでしょうか。

社会に出てから同窓生として偶然の出来事はよく耳にいたします。あるいはその偶然の出会いによって、その人の人生に新しい光が与えられたり、仕事の上で成功されることも多々あるようです。

私もかつてある会社と取引をしており、その会社の社長が先輩であることを知らず、担当の営業が相当の金額の自動機を売り込んでおりましたが、はかばかしく進まず情報によると他の有力な商社が話しを纏めつつあると伺い、駄目でもともとと思い私がその会社の社長に面会を求めましたところ、心よくお会いささせていただきました。色々とお話をしていたところ東実の一年先輩であり、東実の後輩なら君のところに発注しようと言って下され、商談が決まったことがありました。その時のお話しですが「君も東実の卒業生か、それでは俺と同じように頭が悪く馬鹿だな」と言われた言葉が今でも忘れられません。

その時同窓というものは有難いものだなあ！これは同窓生がお互いに大事にしてゆかなければならないことだと、つくづく自覚しました。良い意味での同窓会員の互助の精神は同窓会の発展にもつながることですが、その反面、同窓会を利用して会員に迷惑をかける人もないとは言えません、これはお互いに慎まなければなりません。

在学時代の苦しい思い出、辛い思い出、そして楽しかった思い出などは、同期の方々と語り合うのは全く楽しいもので時の経るのを忘れさせるものです。各期毎のクラス会を毎年一回位は必ず開催して同窓会報にご連絡して下さい。同窓生諸君のご健闘をお祈り申し上げます。

学校教育の目的



学校長 井上 稔

中央教育審議会の「教育制度小委員会」では、現行の教育制度の見直しについて活発な論議が行われているようだが、既に40数年にわたって定着している中等教育制度が一朝にして改革されるとは到底思われない。ここ数年間は机上の空論が飛びかうのは致方ないことと思われる。1948年、戦後の教育改革で6、3、3の教育制度が移入されたとき、小・中・高の学校教育にはそれぞれの目的があった筈である。しかし目まぐるしい我国の経済高度成長の中で高学歴社会の風潮がおきると、受験戦争それにとまなう偏差値の往行などがあって、今や、各学校は教育目的を失ったようである。特に中学3ヶ年は高校に入るための予備的な期間となり、高校3年は大学に入るための入試対策に目の色をかえるといった「教育」からおよそかけはなれた受験技術を指導する場となった感がある。教育目的を失った学校はいわゆる「駅の待合室」に過ぎない。次の列車に乗るための休憩所だとすると、学制とは一体何だろうという疑問もおきて来るのである。

アメリカの著名な経済学者で、後にホワイトハウスの国務長官をつとめたT.W.シュルツは1964年その著書「教育の経済的価値」の中で、教育の国家資本とのかかわりを述べて、教育界に大きな指針を与えたといわれている。シュルツは後期中等教育の定義を、「経済の生成にとまなう職業機会の変化への生徒の適応能力をたしかめる期間」とし、更に「ここではじめて個々の人間の本質を明らかにする」ことを最終目的と結論づけている。アメリカにおける6、3、3はすべて義務教育であり、そのほとんどが公共学校で占められているところから、とかく官僚的な「生産性」や「効率」を求められて、教育の本質からはずれ勝ちであることについても、シュルツは鋭く指摘して、後期中等教育は、学問的な開発よりも人間の本来の質開発に力を入れるべきだと強調するのである。

中等教育が3、3の2段階に区分され前期後期の学校にわけられている意味は、それぞれの学校に教育目的があり、その目的のためにそれぞれの日常活動があり、カリキュラムが定められているのである。この制度を移入した我国では、急激な経済成長が学校教育の目的を押し

ながし、形式だけ取入れてその目的を失い「進学のための待合室」化してしまった事実を私達はみとめざるを得ないのである。

臨教審が6年制一貫の中等教育をうたい上げ、更に中教審が学校制度の見直しを論議するに至ったのは、我国の中等教育の現況をみすえての判断と思われる。しかし、教育の現場にある我々は、ここで今一度原点にかえって、「学校教育の目的」について考える必要がある。私は、後期中等教育（高校3年間）の教育の目的は、少くとも生徒一人一人の「固有の能力」を確認させることであると思っている。「固有の能力」を開発することは、「固有の人生観」を確立することに通ずる。自分は何をもって社会に生きて行くべきか、何が自分にしかない能力なのか、そしてその能力をいかに開発するか、これらは後期中等教育の重大な「教育目的」であり、シュルツのいう「個々の人間の本来の質を明らかにする目的」に通ずるものだと考えるのである。

今や、日本の後期中等教育は、受験戦争の汚濁にまみれながら学校教育の目的を失ってしまった感がある。今一度原点に立ちかえるための学制改革が必要なのかも知れない。

目的を失った高校教育の中で、人間の本来の質を開発しながら「固有の能力」の開発にわずかながら貢献出来る教育は今や数少い職業教育にほかならない。その意味で私は本校の教育実践が高校教育の本道を失っていないという確信をもっている。



商品券がカードになった
あのひとに贈りたい「三越ゆめカード」

GIFT CARD 5,000 YEN

三越ゆめカード

MITSUBUKOSHI



MITSUBUKOSHI
日本橋 TEL/03-241-3311(大代表)

人と人の つながり

理事長 上野 雅子



同窓会報も第1回発行から早や1年が過ぎて、第2回発行の運びとなりました。東京実業も、創立70周年を間近かにひかえ、その70年にわたる歴史の中で数多くの生徒達が卒業し、今では夜間及び専門学校を卒業していった方々も含めて、23,000名以上の数にのぼります。1人の人間が生れてから死ぬ迄の間に、この広い地球上でどれだけの人達と知りあい、つきあうようになるものでしょうか。大方の人間は、多くて精々200~300人位ではないでしょうか。それも本当によく知っていて親しい関係の知りあいとなればもっと少ない数になるでしょう。政治家や芸能人、スポーツマンなど世に言う有名人といわれる人々は、一般社会に生活している私達に比べ、人とのつきあいは広範囲に及んでいますし、私達もテレビや映画などで彼らを見て何となく知っているような錯覚をしますが、そういう人達にしろ1千人以上の人々と親しくつきあっている人は少ないだろうと思います。

先生という職業は常に若い生徒達を相手しているわけですし、1年毎に新しい生徒達が入学し、その数も何百人単位ですから、何十年も先生稼業を続けていれば相当な数の知りあいが出来るはずですが、現実には全部の生徒達を教えるわけではありませんし、卒業後も親しくつきあうというのは本当にわずかの数しかないもので、そう多くの知人が出来るわけではありません。しかし、他の職業の人達に比べたら、知りあう機会が多いぶん知人の数も多いだろうとは思いますが……。

その人間同士の出会いの多い学校という社会に身を置いているおかげで、私も様々な人々とのすばらしい出会いを数多くさせていただいております。理事長就任以来まだ2年と日が浅いにもかかわらず、いろいろな方々からのお招きで、また新しい人々との出会いが生れております。長い歴史を誇る学校ですから私よりもずっと御年輩で御立派な卒業生が沢山おられるわけですが、有難い事に、そういうすばらしい方々からの御招待に幾度か出席させていただいて、すてきな出会いを経験しているわけです。

私立の良さは習った先生が定年迄は、かならずその学校に在籍していて、卒業後学校へ訪ねてきてもいつも待っていてくれるという事ではないでしょうか。現にこの

学校も昔の先生を懐しんで来校して下さる卒業生が多くあります。人間年を取ると昔の事が懐しく、若かりし頃の思い出の場所を訪れたり、学生時代の友と頻りに会ったりするようになるものですが、そんな意味で母校というものは青春時代の血を躍らせた場所として心に残る存在でなければならぬはずで、その母校が嫌な思い出ばかりだったり、卒業後ひどい学校になってしまったなどという事は決してあつてはならないのだと、その責任の重さに身のひきしまる思いがします。

今年もまた、486名の卒業生を送り出し、直ちにその卒業生達は同窓会のメンバーになるわけですが、皆さん達もどうか人とのつながりを大切にして、すばらしい人間関係を作り出し、どんどん友人・知人を増していってほしいと思います。その事がきっと長い人生のうちですばらしい成果を生み出すと信じています。年代の違う人達との交流をはかる場として同窓会という存在は共通の学校を卒業した事で親近感が持てますし、多いに活用してほしいものです。若い方々も同窓会発展と共に、どんどん参加し、諸先輩達からいろいろな事を学んで自分を磨いていって下さい。東京実業の同窓会の輪が益々大きくなる事を切に願ってやみません。



▼第34期同期会

第34期同期会は、昭和34年3月に卒業した、商業科及び女子商業科の有志が、同期に卒業した、岩柳君が生麦で寿司屋をやっている関係で、いつも利用させて頂き開催するもので、もう7回目を数えるに至った。男性は今仕事柄一番忙しい年代の為、なかなか集まりにくい、その点女性は子育てが終わり、有意義な人生を送っている方が多く、今の所、男性陣は、たじたじである。久しぶりに集まると、昔に帰って、ワイワイガガヤやっていて、見ているも楽しいものだ。

写真は、初めて理事長ご夫妻を呼んで会が盛り上がり皆満足の様であった。(4次会迄行った人がいた様だ)今年第8回は開催出来なかったが、平成3年には開催したいと思うこの頃です。

男性幹事 速水 由己



【座談会】

戦前、戦後の学校から
蒲田駅付近は……？

日 時 平成2年10月19日(金) PM 3:00より

場 所 学校、校長室

ゲスト ・ 瀬戸光平氏 (旭屋酒店会長)

・ 浦上喜久二氏 (菊屋浦上商事社長)

出席者 ・ 井上校長 ・ 村松会長 ・ 井上編集者

村松・ 同窓会報2号発刊に当って、蒲田駅から学校の昔の状況等の今昔話を掲せたいと存じまして、お集り頂いた訳です。

浦上・ 私は、ここに来たのは昭和32年で、それで34年から東実高校に関係をもちました。2号館の落成に当って三越はじめ、キクヤ、一二三堂、トラヤさんと私どもが選定されて学校指定になった訳です。

井上・ 新潟鉄工の引込線でなかなか開かない踏切りがありましたね。ちょうど今の環八になる訳ですか、映画館が2軒ありましたね。国際劇場と東宝と、この映画館の前を通ってはいけなかったことになっていたので、御園町に松竹の一軒建ての社宅の中を通学していました。又、商店街にはマツヨシ百貨店がありましたね。今のヨーカ堂の処ですね。

校長・ 戦前の西口は、ちゃんとした街だったんですが、そんなと言っちゃ申しけないが。

浦上・ 駅の近辺は整然としてましたよ。夜店が出たり、特に東口の夜店は毎土曜日出て盛況でした。

村松・ 戦前は東口の方が栄えていたんです。戦後はね、闇市が出来たり西口が早かった。池上線と目蒲線があるもんですからね。(当時は学校の校庭の中を通ってた) 少し先きは畑がありました。戦後東口には砂利置き場で砂利山があった。今の三和銀行の通り、それは羽田飛行場へ運ぶものです。

瀬戸・ やあ、やあ遅くなりました。(旭屋さん登場)

井上・ 今日は、蒲田の古い頃の話を中心として、うかがっていたところです。

校長・ 昭和27・8年頃に蒲田の闇市に長靴を買いに来たことがあって、蒲田というのは闇市しか印象にないので、一体戦災前の蒲田はどんなだっただろうかと興味がありますね。その時この辺を歩いたんです。当時はこの学校に勤めるとは思ってもいなかったの

うっかりしたが学校みたいな所に金鋼でズーツと囲ってある。これはてっきり野犬の屠殺所かと思ったが、あとで熊蔵先生に「それが学校だ」と聞かされた。(笑)

井上・ それまでは新潟鉄工が校舎だったんです。

校長・ それから明治大学の講師になったんです。熊蔵先生と総長の近藤卓哉先生と同期生で、粕谷先生が埼玉に行くので幸一を助けてやってくれと要請された。週3日間手伝いに行けと言われてからの縁です。それが昭和32年で、もう今年で35年になります。ですから粕谷先生が亡くなるまでズーツと一緒にした。その時35歳で東実に来たんだ。

浦上・ 私は粕谷先生、高橋先生、宮野先生を存じております。熊蔵先生は顔はやさしそうでも、きびしく、しっかりしている先生で何度かお話ししたことがありましたがとても温厚な先生でしたね。その頃彫大な土地を手に入れたね……。なんと先見の明があったねと粕谷先生に言ったら、そりゃ君、学校をやる人は考えが違うんだよ、と言っていた。

校長・ 旭屋さんとは保護者会の関係で、つき合っていて、業者としてより長い、35年になる。なんといったって学校でビールや酒を買うのは多いですからね(笑) 今いくつ。

瀬戸・ 75歳です。

浦上・ 村松さんは、どういう関係で入学されましたか?

村松・ 私の親は変っていて、電車で通うと悪くなるから近くでよい、という考えでした。たまたま学校が出来たので、昭和12年に入ったんです。歩いて通えるから。私は八幡神社のそばにいたんです。それにその頃商業学校がうれて良かったもんで親が勧めたんですね。この通り(正門前)の向うにスマトラがあって、あの当時は、あそこには入ってはいけなかったことになっていた。ある時高木さんと入っていたら、前の同窓会長の山田先生と渡辺先生が入って来られたのでビックリした。翌日停学じゃないかとびくついた思いでがある。

浦上・ 田園という喫茶店があったね。今のマルヤの通りあたりですか、ローソクを立てていい音楽を聞かせていたね。

校長・ 今の「古門」ですね、田屋が「田園」ですよ。

瀬戸・ 私の甥が志望学校の受験に落ちて困っていた。「じゃ東実はどうだ」と言ったら、「とんでもない、あんな難しい学校になんか」と言われてビックリした。

校長・ それは何年頃ですか?

瀬戸・ 昭和34・5年頃です。

校長・ 30年の初め頃から、機械がすごく盛んになりまして

5倍とか10倍位の競争率で、ものすごく激しくて、入学試験が一週間もかかりましたよ。工業も大変でしたよ。

すみませんが、中学の先生達の説明会がありますのでこれで失礼します。(校長退室)

浦上・非常に狭き門でしたね。

井上・戦前の蒲田商店街の様子をお聞かせ下さい。

浦上・私も戦前の時は17~8歳でしたから生徒とたいしてかわらなかったので、あまり良くは知らないんです。

瀬戸・戦後はね、家の脇に闇市があってね、それが焼けてしまってね、それで中井沢さんが仲通りに移って行った。あとに佐々木さんが来てコロツケを揚げて売っていたよ。良く買うんだ、新聞紙に包んでね、又買って来たと家内によく怒られたもんだ。(笑)

井上・喧嘩なんかしたことありますか?

村松・まあまあだね。我々は硬派だった。硬派というのは与太者で、よく喧嘩をしたもんだ。(笑)

井上・その頃の生徒の評判はどうでしたか?

浦上・それはもう良い評判より悪い評判の方が早いからね。一同(笑)。

村松・東実に女性徒がいましたね。知っていますか?

瀬戸・いました、いました。女の子はいく人もいなかった。中でも店長の嫁がそういえば商業科にお世話になったんだ。

浦上・一クラスはありましたか?

瀬戸・5、6人位ですよ。

浦上・息子さんが卒業生なんて話しづらいね。

瀬戸・家の三男坊がお世話になっていた時、一年生と二年生と口論が始まった。仲間がいじめられたそう、それを聞いた息子が二年生を殴ったんだ。そうすると上級生に向うなんてとんでもない奴!! と騒ぎが大きくなって気が強い息子は大山組に助けを求めた。さあ騒ぎは大きくなり、とおとお警察まで出てきたが、そこはブ口。すぐに納めてしまった。(笑)

井上先生や理事長先生も誰もその騒ぎはわからなかったそうだ。大山さんは家の裏にいたんだ。

井上・キクヤさんは戦前から学校に文具を納めていた訳ですか?

浦上・初めは教員室に文具を納めていたんです。そのうちミドリ屋さんを知って納めました。あの店は仲々人気がありましたね。そこに靴屋さんも入っていましたね。

井上・駅を下りて真すぐにデパートがありましたね。

浦上・今の、カメ屋の手前の寿屋前、三階建ての野沢さん(ダイゴさんの弟)が管理していた。だけどやめましたね。大海老がそのうちきましたね。戦前カメ屋の

角に第百銀行があった。その斜め向にバスのロータリーがあった。

瀬戸・貴男は若い顔をしているが、よく知っているね。万年青年だね。(笑)

浦上・昭和12年から知っているよ。蒲田は蚊が多いのでびつくりした。ドブが多かったからね。

村松・蒲田は良くなりましたね。ビルは出来るし、よく発展しましたね。蓮沼駅近くなんか空地が多くて、田圃があって肌上げなんかしていた。

浦上・池上線がよく見えて、向うの方までよく見えた。競争中、青年学校があって、東実によく引っぱられた。宮野先生がいて、どうして来ない、なんてよく怒られた。

村松・青年学校の教練もここでやったんですか。

浦上・そうここでやっていて、商店街の小僧はみな狩りだされて来ました。

瀬戸・いまでも大城通りの花屋があるでしょう。あの親父が私と一緒に仲通りの角の花屋で小僧をしていた。いまでも会います。その人と二人で学校に行ったもんです。すると宮野先生が遅れると怒るし、欠席すると怒るんです。そのうち徴用で引っぱられました。ですから西口の小僧はみな東実の青年学校で軍事教練を受けたんです。それは昭和17、8年頃でした。

村松・話しは変わりますが、お店へ来て文具などの万引きなんかないですか? 一同(笑)

浦上・高校生は、たとえても上手でね、つかまらないですよ。一同(笑)みんな小学生ですよ。

うちはコピーなんか安くしないんですよ。安くすると来ることは来るんですが、集団で店中をウロチョロしているので、目が届かない。コピー1枚で10円位で、社員1人でしょ(笑)。ですから合いませんよ。子供達はカドヤとキクヤとヨーカ堂が一番盗りいいと言っている(笑)。仕末が悪い。

瀬戸・だけど商売は、盗られる方がいいらしいね。お客が来なければダメだし閑古鳥が鳴いているのも商売にならない。(笑)

村松・私たちの学生時代は、「今日はこれだ」と自慢して見せていた奴がいた。(笑)

瀬戸・そうだ私だって万引きやったことがあるが、家が貧しくてやるんじゃない、面白がってやるんでどうのこうじゃないんだ。一同(笑い)。

村松・今の中央通りは昔と同じですか?

浦上・主道はアサヒヤさんの前が主道で、銀座通りは道がなかった。今は公道ですが、つい最近までは私道だった。線路の下はずっとドブ川だった。

村松・キクヤさんの方はどうですか?

浦上・小さなドブ川。

村松・その道と奥の道は道塚へ行く道ですね。

浦上・うちの前のバス停の道は狭かった。今のバス停キクヤさんの道はなかった。終戦後に出来た。

瀬戸・あれを造るために、みんなどかされて三割三分とられた。

浦上・造っても、何もありませんでしたね。抜け道が無いんだから、だれかの責任ですよ。あれは(笑)。

井上・蒲田には映画館が何軒位あるんですか？

瀬戸・東口にあったがもうなくなった。

浦上・西口にあるんじゃない。

瀬戸・ヨーカ堂の4階にもあるよ。あとは見当らない。

浦上・戦前は東口に電気館があり、駅前通りは毎週土曜日の夜、夜店がでて大変賑わっていた。国道際に富士館があり、キネマ通りにも映画館があった。

井上・どうも長い間皆さん有難うございました。

昔しの蒲田駅近辺の様子がよくわかりました。又次回のお報にはテーマを作りましてご意見などを聞かせて下さい。(散会)



追憶

(野球の想い出)

17期卒 高橋 武三



入学してより半世紀が過ぎました。私達は本日までは、人、それぞれ喜怒哀楽の情を心に刻みながら、年輪を積み重ねて参りましたが、是れからも、トボトボと歩み続けて行くことと思いますが、私達にも、嘗ては、青春があり甲子園に続く道を追い求め、情熱を燃やす時代があつ

たのです。追憶を彷彿い乍ら、当時の叙情が蘇がえってくる。その当時の世相は刻々と戦時色に塗り替えられつつありましたが、未だ余裕がありました。

入学時、校舎の横隣りに蒲田区所有3万坪位の野原があり、そこを野球部のグラウンドに利用させて載いたので城南地区の雄として人気がありましたので、入部応募者が18名もあり驚いたそうです。軟球(ゴム製の健康ボール)から硬球、牛馬皮を麻糸で縫い合せた弾まない硬いボールを剛(ごう)と触ると顔が硬直したものでした。

練習は放課後、1年生は専ら基本のキャッチボールとランニング(時には素手で)、外野手の後ろで球拾い、グラウンド整備と後かたづけに加えての宿題、痛んだ球、2個、表皮を麻糸で縫い合わせの修理等その他色々ありましたので1年後には11名退部、厳しい下宿小僧の様な修業の日々でしたが、2年生の後半になるとポジション候補として先輩と共に基本練習に入ります。最も恐ろしいのは個人ノック、バックネットの中央に位置され両側に先輩が、ノックバッターを持ち備える、ピッチャプレート後方5メートル位の処から、50球から80球位思い切り振りぬいた猛ゴロを打ち続けられる、直球及びゴロが手足は勿論、五体至る所にぶつかり気が遠くなる程痛い、汗が眼にしみ入る、悲鳴をあげると左右に先輩が腕を、歯を食いしばり、悲愴な覚悟をもって大きな声を出し乍ら闘志を燃やし、球にくらいついて行く。試練が終ると先輩の指導と手当、よく頑張ったな、痛かったろうと慰めの言葉と共に薬を付けながらマッサージをしてくれる。

これらに依り技と根生が育ち成長して行くものと思われれます。隣の野原に区立高等小学校が建築されるのでやむを得ず池上近くの内外編物、ガス橋下のグラウンドを借用する。目蒲線道塚駅より下丸子駅まで電車に乗ると乗客者が皆んな鼻をつまんで逃げて行く。明大野球部のレギュラー宮本遊撃手・上林補手交互にコーチに来て載き徹底的に鍛えられる、対校試合の成績も急上昇致しました。夕闇せまる6時頃佐藤三男君と帰宅の道すがら、空腹と疲れて、フラフラ、銭が無いので20銭で塩豆を食べながら水をいっぱい飲むと少し腹が膨らむ、自宅では、カレーライス3枚位軽い(配給制ですので遠慮する)、球を修理しながらせんべい、薩摩いも等を摘む、底無し沼の様でした。国際世局が刻々と悪化を極め巷では出征兵士と軍歌が響き渡り戦時体制となって行く、外国スポーツ、特に野球は、敵国語使用、対校試合中止等圧力が加えられ軍国主義となり驕り、大東亜戦争へと突き進んで行きました。若人には限りない可能性がある、輝かしい野球部の伝統の歴史を受け継ぎより成長発展を望むO Bです。

学校からのたより

東実この1年

——東実祭、体育祭、
クラブ活動について——



生徒部長 尾藤 勇

11月1日から3日まで、わが東実は「東実祭」で生徒教職員共大いに燃え、天まで我々に味方したのが、3日間とも好天にめぐまれ西蒲田がいわいは、大にぎわいであつた。

1日、東実創立68周年記念式典で、井上稔校長先生の式辞のあと、永年勤続者表彰があり、つづいて全校生徒を前に「頑張ろう」と右腕をつきあげ生徒諸君に奮起をうながしたところ、いつせいに拍手歓声が沸きあがり、一瞬虚をつかれた思いで、東実生のうたばひびく感性に思わず熱いものが胸をよぎつたのであつた。そして弁論大会——初めての試みだけに不安な気持ちがあつたが、各弁士諸君の気力あふれる熱弁を聞いていて、もっと多くの人に聞いていただきたいと思うと同時に、人間を測るに単なる偏差値だけでは測りきれない、しなやかでいて雑草のたくましさをもつ、東実生の「東実魂」を見る思いがした。

2日午後、東実祭は正式にオープンし、外部の人たちがどっと入りこんできた。今年の東実祭は、体育祭が雨のため10日程延期になり、そのしわよせで取り組みが1週間ほどしかなく、幕が開くまではおっかなびっくりというところだつた。しかし、通用門には近来にない圧巻といわれる程の歓迎アーチ門が完成し、その正面には、今年のメインテーマ「新時代—21世紀への飛躍」が鮮やかに浮かび上がり、東実生の意気込みを印象づけていた。

テニスコートには各種売店が出だし、万国旗が秋風にはためき、特設ステージでは点滅式のデコレーションライトがぐるぐると同転して文化祭の雰囲気の大いに盛り上げていた。このステージには週日校内美化コンクールがおこなわれた際、優秀クラスに賞品として出された植木類がおかれて、ステージに文字通り花を添えていた。広い舞台では各種のイベントが目白押しで、のど自慢、アームレスリング、Mr.レディー、早飲み大会等がおこなわれ、明かるい笑いを誘っていた。

そして午後4時から、これまた初めてのイブニングフェスティバルが体育館で開かれた。今年の生徒会の企画によるこのイブニングフェスティバルも、必ずしも成算あつてのそれではなく、ともかくトライアル&エラーで東実祭をより以上に盛りあげ、東実の名物にしようとの

願いからの取り組みだつた。しかし、予想外にたくさんのお客さんをむかえ、後藤君(E2A)のピアノ演奏にも熱がこもり、ベートーベンの「月光の曲」の演奏には拍手喝采がわきおこつた。

クイズやビンゴゲームのあと、この日の「トリ」は吹奏楽部で、翌日の東京都大会用のフル演奏を組んでいたが、また、有田・横田両先生が最高にハッスルして、他校女子生徒も参加してのアドリブ演奏、東実少年隊の華麗なダンスも披露し、この夜のフィナーレを飾るにふさわしい力強く男っぽい演奏だつた。

最後は、蛍の光のメロディーにのせて、ライトを徐々に消していく心憎いばかりの演出でこの夜の幕を閉じた。

3日文化の日、この日も朝から絶好の行楽日和だつたが、親師会、同窓会、卒業生OB、その他の関係者、父母、他校生などで終日校内はにぎわい、この二日間で去年より千人程も多く約4千人ほどのお客さんが見えになり、学校としても大変感謝いたしております。このように大勢の人々に見守られ声援していただいているということが、生徒諸君にいかに大きな「はげみ」になるか、今年の東実祭を見ていて、つくづく感じました。

生徒会としては、他高校との「討論会」を開いたが、これは東実祭を単なるお祭りにおわらせるのではなく、若者同士の連帯をはかり情報を交換し東実祭を広くアピールしようとの企画でもあつたわけです。

この3日間を通して、何といつても印象にのこつたのは、本校生の「やる気」だつたと思う。そしてそれを、教職員が一体となって引き出し、生徒諸君もよくそれに応え、この東実祭を成功させたことはすばらしいことであつた。まさにこの3日間「東実は完全燃焼」したのであつた。

東実祭直後新年度の生徒会役員立候補者を募つたところ、予想をこえる候補者が出て国会議員なみの激戦になつたことなど、とかく生徒会役員という仕事は仕事量も多く、責任も重く、敬遠しがちという世評を打ち破る生徒諸君の意欲の表われであつて、この意欲、そして東実祭、体育祭等の盛り上がりを見るとき、東実の明るい未来を見る思いがしてくるのである。

親師会、同窓会の皆様にもお願いして、東実祭展示の優秀作を選んでいただいたが、期せずして、O1A、Bのテーマ館が高得点をマークした。この2クラスの展示は近来まれにみる傑作で、地球の過去、現在、未来にスポットをあて、このかけがえのない宇宙船地球号を、みんなで守ろうとの意気込みがヒシヒシと伝わってくるアイデアはさすがであつた。それをアキ伍回収神輿(みこし)で訴え、校内をねつたのは大変おもしろくて私自身も年のことを(？)忘れて、生徒と共に興奮したのであつた。

東実大バザールについてお礼

今年の東実祭で、もうひとつの大きなイベントが「東実大バザール」の成功であった。これについては、1学期早くから親師会理事会、親師会総会で直接お願いし、さらに生徒、各家庭へちらしを配って協力をお願いをしたところ、大きな反響があり、続々と宅急便でバザー用品をお送りいただき、本当にありがとうございました。また、お客様も多数お見えいただき、3日などは売切れになるなど、大盛況のうちに閉店いたしました、総売上は18万円ほどになりました。

この中から、発展途上国の教育施設の充実に役立ててもらおうということで、日本の海外青年協力隊の活躍するケニアの首都、ナイロビ市郊外のハランベースクールに寄附することになりました。これは外務省外郭団体の国際協力事業団（JICA）の斡旋によるもので、2年前、前校長上野幸一先生の遺志により、ケニア国内26の小・中学校に善意のお金がとどけられ、大きな反響をよびましたが、今回はそのうちの2校に寄附したものです。わが東実生の善意が、遥かアフリカ、ケニアの地で大きく花開き、息づいていることを思うとき、心豊かな気分になってきます。その他に、聖フランシスコ子供寮とあゆみの箱にも寄附いたしました。



歓迎アーチ門に秋の日は映えて



狭い校庭をぬっていくお神輿

体育祭雑感

ことし(90年度)の体育祭は10月23日(木)大井陸上競技場で行われた。予定からいえば、10月13日だったが、雨のため順延になりこの日開かれたものである。去年は雨のため止むなく中止になったが、今年は予備日がとってあったので、予行や応援練習にも熱がはいり、この日、本番をむかえた。

快晴とまではいかなかったが、暑からず寒からずの絶好の体育祭日和にめぐまれ、交通がやや不便にもかかわらず、スタンドには父田も多数見えられ応援しておられた。

入場行進、開会式、そして各種競技にはいつていつたが、そういった中で、やはり、フィーバーするのはクラブ対抗リレー、クラス対抗リレー、色別対抗リレーなどであり、途中の得点発表では、先生も生徒もいっしょになって、あの点はおかしい、集計ミスじゃないかとかしましい。今年の体育祭で活躍したのは、さきの東京都大会で200メートルで2位に入賞した陸上部の松本一幸君(M2E)のダイナミックなフォームで、流れるような走法が多くの注目を集めていた。貫禄勝ち。

本校の体育祭は色別対抗戦であり、区分は白隊一機械科前半、青隊一機械科後半、赤隊一電気・普通科、黄隊一商業科前半、緑隊一商業科後半の5色対抗となっている。しかし長くつづいたこの色別も、来年は普通科が独立するので、もう1色ふやさなくてはならないが、何色にするのか思案投首の体。当の普通科では、紫だとか、エビ茶だのとかしましいが、ピンクが似合うというささやき声もある。

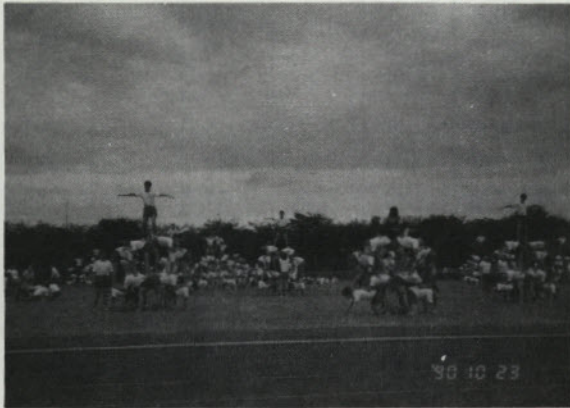
ところで、大井陸上競技場は、国際大会にも利用される程の立派な施設であるが難点がひとつある。それは正面スタンドと外野芝スタンドの待遇の違いである。正面にはちゃんとしたイスがありきちんとすわれて、本部席に近い有利さがあるが、外野芝スタンドは直に芝にすわるので、シリガ冷めたく、ゴールには遠く、何か遙かむこうの方で体育祭がおこなわれているという感じで、参加意識(?)がわいてこない。

そして、正面ゴールスタンドにすわれる特典は前年度の成績如何によるのだ。ここ何年かずっと、黄色、緑の独占がつづき、それだけに、この特典を他色に渡してなるものかと、目の色を変えて頑張るので、白や青ははいりこむスキがなく、いつも貧乏くじでこの外野芝専門である。もともと、外野の方が人目につかない利点もあるが。

ただし、今年は赤隊が奮起一番、ついに総合優勝し、来年は正面スタンドに陣どる。白と青、来年こそ、乾坤

一擲(けんこんいつてき)正面スタンドを奪いとらんと頑張っしてほしい。OBの白隊、青隊の皆さん、来年あたり応援にいらしていただけますか、そして、後輩達を叱咤激励して下さい。何故って以前は、白、青が優勝していたのですからね。

そうしてうれしいことに、今年の応援合戦では、みごとに白隊がオーソドックスで真面目な応援を展開し、応援1位になり、団長の恋塚君は同窓会長杯を同窓会会長の村松浜代氏からいただいた。白隊青隊の低迷脱出のカンフル剤となれるのだろうか。かくして、体育祭は無事終了し、秋の日はつるべ落としに暮れていった。



二年生全員による組立体操



寒さもふつとばす商業科3年のエッサッサ

交換留学生 各科情報

●5月12日、志賀由直先生に引率された7名の交換留学生が生、成田からアメリカ・コロラド州ボルダー市へ旅立った。そして6月25日の帰国まで6週間、彼の地に滞在して、小・中・高校や会社などを訪問し、有益な交換の実をあげて帰国した。その体験談は弁論大会で行った。なお、今年はアメリカからくることになっており、6月初めには華やかなアメリカ文化をいっぱいもって来校の予定。

また、7月21日、東京都の主催する東京都青少年洋上セミナーに、本校から2名の生徒がえらばれ、新さくら丸で中国の上海、北京などを訪問し、友好親善につくして8月5日帰国、その体験談も弁論大会で行った。

●電気科では国家試験の電気工事士試験に毎年多数の合格者をだしており、今年も成績をアップするため、早くから受験対策に取り組んできた効果が実をむすび、二次試験の結果、最終的に26名の合格者が出た。これは、東京都でも上位にはいる好成绩で、今年度は初めて1年生から角田勇君(仲尾台中卒)が合格した。

●普通科では毎年夏休みを利用して、静岡県御殿場市で学習合宿をやっており、今年度も1・2年全員参加、3年は任意参加ということだったが、静かな環境でゆっくり勉強でき、費用は格安ということが人気をよび、多くの参加者を得て実施され多大な効果をあげた。

●商業科では簿記、珠算の検定試験合格率をアップするため、校内検定試験をおこなっている。また最近は、進学希望者が多くなり、校内で進学補習授業を行っている。

●機械科では計算技術検定をはじめ、製図、アーク、ガス溶接等の各種資格試験に合格するよう、きめこまかな指導を行って、この資格の世の中で自信をもって対応できるよう指導を行っている。



姉妹校の歓迎委員とサヨナラパーティーで記念撮影する交換留学生達

カーペット
カーテン
絨毯
床材各種
トータル・インテリア

遠藤商店

大田区久が原 3-34-12
TEL (03) 3752-3027

遠藤孝一(昭21.3.商卒)

クラブ活動

○吹奏楽部（東実フェニックス・レジメンツ）は、過去、全国大会で6年連続して金賞を獲得しているが、89年11月3日の東京都大会は圧勝、つづいて11月24日の関東大会（土浦市）も軽く一蹴して、90年1月19日の全国大会（名古屋レインボーホール）にのぞんだ。今年、最高のグランプリ賞の獲得をめざし、急拠、大編成チームをつくり、満を持して名古屋にのりこんだ。大願成就を期待しましょう。

○野球部 90年の夏の大会では期待されながら今一歩だったが、秋の新人戦では、小さな大投手・平野誠太郎君（御園中卒）が好投し、みごとブロック優勝（東京都20ブロック）をした。

本大会1回戦では、国士館高校と対戦し、延長10回裏2-0で敗れたが、相手校監督先生に、「あいつは凄い」と言わせた平野君、今年夏の大会での活躍が期待される。

○レスリング部 89年、福岡で行われた「とびうお国体」に、比内哲夫君（潮田中卒）がグレコローマン68kg級に出場したが、全国の壁は厚く惜戦、秋の団体新人戦では惜しくも第2位となった。しかし、有望新人が多く、今年活躍が期待できるとのことだった。

○陸上部 このところ低迷していたが、松本一幸君（目黒11中卒）は久しぶりの逸材で、東京都大会では三段跳び第2位、100m走では第3位になった。1年の時痛めた脚が完治すれば、全国大会でも有望とのことだが、活躍を期待したい。（親子二代とも東実卒業生です。）

○その他 柔道部・サッカー部・剣道部・テニス部・バスケットボール部等も大いに活躍している。



イブニング、フェスティバルで熱演する東実吹奏楽部（フェニックス・レジメンツ）



昨年（平成2年）度の進路状況

昨年度卒業生（763名）の進路状況は下記の通り全員各々我が路へと跳んで出た。

記

	機械科	電気科	商業科	普通科	計
大学 I 部	0	0	2	2	4
II 部	3	0	0	3	6
短大 II 部	1	2	0	2	5
予備校	0	0	0	18	18
専修各種	38	48	95	5	186
訓練校	2	1	1	0	4
就職	180	69	112	2	363
縁故	37	8	41	3	89
自営	17	2	15	0	34
未報告	13	9	19	3	44
計	291	139	285	48	763

尚就職方面は建設業9名、製造業162名、運輸通信業19名、卸小売業109名、金融保険・不動産業7名、サービス業50名、公務員7名（自衛隊5名、警視庁2名）です。



昨年（平成2年）度の生徒募集状況

昨年度の生徒募集状況は下記の通り、ますます母校東実の名門校になりつつあります。

記

科目	募集人数	応募人数	入学者数	倍率
機械科	200	734	255	3.7
電気科	100	449	100	4.5
商業科	200	811	266	4.1
普通科	50	*821	107	16.4
計	550	2,815	728	5.0

*普通科は2次募集の数も入れてあります。

尚本年（平成3年）度の募集人員は次の通りです。

機械科 180名 電気科 90名

商業科 180名 普通科 100名

サテ！今年度の応募人数は如何なることか。

会報発刊 によせて



元教員 大平 与 篠

先般同窓会の会報が創刊されたとき、大変結構なことと思います。「東実タイムズ」が在校生向けに年何回か発行しているわけですから、既に2万を超えた卒業生向けのものも、当然発行されてしかるべきものと思います。ただ昭和30年代に一度発刊されたような気もしますが私の記憶ちがいでしょうか、何れにせよ多くの卒業生が母校の様子を知りたいという気持を強くもっているわけですから、これを機会に無理をしないようにして継続して頂きたい。「継続してこそ花が咲く」と言われていますから。

創刊号を納ませて頂き会長さんや校長先生、理事長、先生のお話しのあと、小島、山口両先生の近況、次いで各期の方々のお話しを楽しく読ませて頂きました。この種の会報は私の小学校や中学校からも時々送付されて来ますが、ややもすると回想型が多くなり俗に言われる過去形会報となりがちです。それもノスタルジアをそそり結構なことですが、久しぶりの発刊を機にこの会報のより発展充実のため次のことをお願いしたいと思います。

先ず第1に学校の内容や動き即ちクラブの状況や運動会その他の行事、入試の状況や結果等PRも含めて知らせて頂きたい。それにより母校が身近かに感じられ往時を思ふよすがとなります。

次は在校中の回想、この種の会報には当然のことで、各期の方々が時代が違っても読んでいて楽しいものです。

3番目は特にお願いしたいことですが、卒業して何年かまた何十年後の今日「今こうやって頑張っている」という現在の活躍状況を知らせて頂きたいことです。これは卒業間もない人でも年輩の人も遠慮せずにどしどし応募し、あるいは編集部から頼んで記事を掲載して頂きたいという事です。10月中頃私は小学校の同期会に出ました。昭和15年新潟の田舎の小学校を卒業した150人の男女は、ここ20余年2～3年毎に新潟と東京の中間地帯の水上・湯沢で1泊するわけですが、大体60人前後の人達が集まります。今年は草津に集まりましたが、ホテルの玄関に大きく同期会御一同様と書いてあったのが何か老人会と書いてあるようで苦笑したものでした。その席で各人が思い思いに短いスピーチをするのですが、飲みながらですから満足に聞いているわけではありませんが、

時々ピカッと光る話が出てきます。それは60歳をすぎサラリーマンはほとんど退職しているわけですがその中で「私は今、こうやって頑張っている」といった内容の話です。氏名さえ半分忘れかけた人からの未来型の話に大いに勇気づけられ今も心に残っています。彼はそんな事を意識的に言わんとしたわけではないのに聞く方は胆に銘じて忘れられない内容が時々出ました。この事をこの会報に当てはめるわけでもありませんが、是非ともこの種の内容のものを沢山記載されるよう心より願います。

紙面の関係もありますので次に書く機会がありましたら、私の回想や現況について申しあげたいと思います。

この会報の継続発展を心よりお祈りします。



在職中の思い出



元教職員 瀧 直 治

在職中の思い出と言えば何といてもヨーロッパへ1ヶ月アメリカ半月の出張旅行が最も強く印象に残っています。

ヨーロッパへの出張は全国商業高校協会（略称全商）からの依頼によるものです。昭和39年夏全商主催の実用英語指導者講習会で会員の総意で全商に英語検定をして欲しいとのアピールをすることになり私が起草委員に選ばれ起草したのと、私が芝商の秋山教頭と共に既に実用英語研究会の運営に携わり英語検定を実施していたことにより、全商から2人に英語検定委員会の組織と運営を委任され公私立商業高校のベテラン英語教師を数名選び約半年の研究の後第1回の検定を実施したのです。当初は約5万人の商業高校生の参加を目標にしたのですが、これを上回りその後好評で年々激増し、数年後は従来珠算の検定料が全商の財源だったのが入れ代り英語検定料が主たる財源になったのです。それを徳として昭和44年全商から私に全国商業高校の職員希望者8名と共に欧州の教育事情視察旅行を委任されたのです。もちろん阪神航空から添乗員が一緒で彼と私が交替で英語の通訳をしたのです。ところがドイツで頼んだ通訳が若い女性で説明する校長の専門的なドイツ語が訳せないで私が代って通訳をしたのです。

ライン下りの船中にドイツの看護婦の一行が乗り合わせたのでローライの所へ行ったら教えて下さるよう頼んだことから老婦長と懇意になり帰国後も文通をし記念切手の交換をしたりした。

ハンブルクの国民酒場でビールを飲んでいる時バンドが鳴り出したら隣卓の老婦人がやおら立上り私にダンスをしようと誘われたのには驚き誰か助け舟を出してくれないかと言ったが誰も来てくれないので丁重に辞退したが本当に恥かしかった。ダンスを習っておけばよかったと悔んだ。

ウィーンの市役所の地下室に有名なレストランがあって昼食に入った。私は禁酒で専ら食道楽なのでコック長に自慢の料理は何かと訊いたらターフェル・スピッツだという。それが出来るかと言ったら出来るということで頼んだら他の者も私にならった。仔牛をワインで煮たものだが付合わせの具が十数種回りに並んでいてどれもすごく旨かったのが忘れられない。

フランスは凱旋門エッフェル塔ノートルダム寺院など名所も多いが私はルーブル美術館のモナリザを始め世界的な名画や彫刻・ベルサイユ宮殿の歴史的建造物や調度品に深い興味を覚えた。

イタリアは歴史も古く有名な古跡に富んでいる。特にバチカンのサンピエトロ大寺院・ベネチアのサンマルコ寺院・スカラ座などに感嘆した。カトリック信者である私にはカタコンベもまた忘れられない。日本でもキリスト教圧迫による悲惨な物語りがあったように、キリスト信者が地下に延々と穴を掘り多年その中で生活し祈った遺跡を見て胸が痛んだ。イタリアは流石美術の国小舟の噴水を始めとし至る所に有名な彫刻がある。

スイスのケーブルカーの展望台から見た神々しいモンブランの雪嶺・カウベルの音・チロル人形も興味が深い。

英国のバッキンガム宮殿セントポール寺院・国会議事堂など豪華なる建造物が多いが王・王妃・王子と貴族の多数が処刑されたロンドン塔の歴史を顧みる時権力争奪の悲惨を思い暗澹たる気持ちになり早く立退きたいと思った。外に出ると英国には手入れの行き届いた広い公園が幾つもある気が晴れた。

ソ連では雨の中をレーニンの生けるが如き臥像を見んと長蛇の列を作っているのに驚いた。食事がパンにしても肉にしても粗末なのに驚いた。国民が一般に不愛想で不親切なのに憤りを感じた。スイス人のホスピタリティとは全く逆である。

アメリカへの出張は校長の御厚意により米会話の研究という名目で旅費の一部を援助して下さいたのである。

ヨーロッパ出張の一行はモスコウから北回りで帰国したがその前日私1人モスコウからパンアメリカンでニューヨークへ旅立ち、10時間の後着いた。日本人パーサーの厚意で座席で横臥できるようにして下さいた。有難かった。といっても機内ではなかなか眠れないのでモスコウのデパートで買った包装紙を折り紙代りに使って鶴や兎や蛙などを米人スチワードと折って時間を過した。

ニューヨークの摩天楼・自由の女神など見物したが何より嬉しかったことは嘗ての教え子が勤めている日本人クラブで1ヶ月半ぶりにトーフの味噌汁沢庵寿司などの日本食を食べられたことです。ワシントンのホワイトハウスも見ただが大規模だというだけで見るべきものは何もなかった。食堂はどこも黒人が多くて気味が悪かった。

ナイアガラは形・水量・しぶきの高さなどさすがに堂々たる大瀑布である。

ロスアンゼルス・サンフランシスコともに日本人が多く日本の店も多く日本食も自由に食べられる。特にサンフランシスコは気候もよく波止場のえび・かになど安くて旨かった。ロスアンゼルスからディズニールランドへ行って折から来合わせた日航のスチワード4名と共に諸所を見物したり食事を共にしたりしてとても楽しかった。

アメリカ人は一般に気さくで親しみ易い。ホテルの朝食は独身者はカウンターで注文し食べるのだが隣りに来た米人と挨拶を交したら、時、正に米人の月面着陸が放送されていたのでお互にその話を始めると2人で卓の方へ移って食べながら話そうと誘われとても楽しかった。

心の故郷 蒲田の街に30年



元教職員 黒沢 修一

昭和34年4月以来私の人生の半分を過ごさせていただきましたのも、皆様方のおかげと感謝しております。30年1日の如く碌な授業もしなかったのに、昨年の11月東実祭にさきがけて表彰を受け、授業に出るや開口一番勲続30年おめでとうございませう、と拍手されましたが、「僕達3年間も通うのかとうんざりしているのに、よくもまあ30年も！」そう言われて見れば、彼等の想像もつかない以前から居たわけですよ。「僕のお父さん、先生をよく知っている。」「担任でもなし、家が近いのかな。」「うちの卒業生、もっと厳しくて、おかなかったと言っていたけれども、どうしたんですか？」年ですね、二代目と気がつくのに時間がかかりました。もう何組かあります。もつとも求人に来校された企業の方からも「10年前に伺った時とお変りになりませぬね。お宅の定年は60いや55ですか。」「実はいい年なんです」「うそでしょう。」何んて応接室のやりとりでした。たくさん企業から求人をいただけたのも先輩諸氏の実績のおかげですが、39年まで毛筆の履歴書、戸籍謄本、身上書、ガつちり学科、専門科目の試験、一次パスしても二次の面接、身元調査等の苦心談は仲々現代っ子には理解してもらえませぬ。

3月20日に定年となりましたが、記念の品、花束をいただき、ただでさえ涙もろくなっているところへ手作りの赤飯を届けていただき、赤飯を見ると思い出します。お転婆娘が多く、3時間目の終り頃を見計らっては、もつともらしい理由の外出届を持って来ます。本命はササキとか言う商店街の肉屋から、昔の歌の文句にある今日もコロツケ、明日もコロツケと当番が仕入に行ったんです。卒業後も蒲田東実に来たら、帰りは思い出のコロツケを忘れないそうです。修学旅行の九州指宿では、今でこそ混浴、露天風呂等は珍しくありませんが、40年代の事ですから旅館の方にも協力いただき20分間は女子貸切の風呂番をしました。男子生徒からは変な目で見られるし、そんなこんなでジャングル風呂に駆け込むのも遅く、お湯が抜かれている時なのでお湯を求めて風呂場を駆け廻りました。11月なのに師走だなど苦笑したものです。風呂と言えばアヘア・小林電の辺りに風呂屋があつて、合宿中の運動部が利用し、レスリングの交換をまね「ニューヨーク遠征と洒落をとばしたりしたものです。」本音が聞けるのは家に卒業生が来た時です。「奴は製図を誰々に画いてもらった」とか暖房が石炭ストーブの頃は「先生マッチはいりません。煙突で充分、やばい時はストーブの中へ」「ならぬカンニングをするがカンニング」とか発表を控えた方がよさそうです。

私事で恐縮ですが5月の連休中に子供が病気になり、病院にかけ込んだところ受付に卒業生がいて、何かと便宜を図って下さったり、私自身の時、入退室係に駐車違反の貰い下げに、デパート、スーパーの買物、果ては家庭のガスまで皆お世話になる事ばかりでした。

戦後蒲田の近くに住んでいたのも何かの縁で焼野原の駅前から羽田の沖まで見渡せた頃、西口周辺のブラックマーケット、蒲田砂漠の異名高き東口、遅刻寸前には大変便利だった東急のすぐ外に出られる改札口も陸橋の完成、駅ビルプラザの出現で、すっかり街も様変わりしてしまいました。本校も再三の新築でしばらく振りに来校された卒業生が6階建のライオンズマンションと思って、校舎の前を素通りし御園中のプールの辺で気がついて戻って来た事もありました。私にとりましては戦後の蒲田の変遷、東実との思い出の30年間でした。

同窓会に入会して



平成元年度生徒会会長

齋藤 守

私が、東実を卒業してから1年近く過ぎている。もしできることならばもう一度学生に戻って勉強したいと思っている。なぜそう思うのかと言うと、就職してからも毎日が勉強である。勉強と言っても仕事に関係しているものだが、その中にも学生時代にやった事も結構あるのでその時は教科書を引っ張ってきて復習したりもする。私も始めは上司が言った事だけをやっていれば良いと考えていた。しかし、実際は一応上司もある程度の事は言うが後は自分で仕事を見つけなければならない。それは会社によっても違うのだろうが大体は自分自身でやる方が多い。これを読んで「何を言っているんだ」と思うかもしれない。また「自分は大学または専門学校へ行くから関係ない」と思う人もいるだろう。しかし、どこへ行っても高校時代の基礎は大切なものである。だからと言って「朝から晩まで勉強しろ」とは言わない。ただ勉強ができる時期に一生懸命やってもらいたい。社会人になって勉強しようと思っても時間が無い。だから今こそその時期なのだ。

私も同窓会に入会したのだが、同窓会と言うものがどのようなものか余り知らない。またこれも一つの勉強だと思ふ。同窓会というものを学ぶうちにまた一つ新しいことが身に付いた事になる。それが増えれば将来身に付いた事が「宝物」になるであろう。

最後に勉強と何度も言ってきたが、ここで一番勉強してほしい事は「人間関係」である。同窓会に入会しても人間関係がうまくいかなければ、たとえ他の事がわかっていてもうまく行かないはずである。人間関係こそが本当の勉強=宝物だと私は思う。

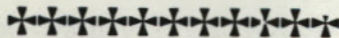


良い友達を持つ喜び!!

31期卒(商業科)

西 広 夫

私は商業科31期生で卒業して34年が過ぎました。珠算部に席を置き、今思えば私はあの頃珠算しかなかった様に思います。現在は計算機の時代ですがソロバンを使用している毎日で時代を感じます。私は東京で生れ育ち、S49年北陸に移り今日に至ります。最近では雪も少なくなった様ですが雪が降り凍ると車の運転は東京では想像もつかない程大変なのです。大雪となりますと二階の屋根に上って雪おろしをします。自然の恐さをいやという程感じさせられます。しかしこの雪が解けて春になった時の心の和みは経験した人でないとわかりません。魚が新鮮で豊富で秋が来たかと思うとすぐ冬がやって来ます。四季のある国に住んでいることは幸せな事だとつくづく思います。私は片山津ゴルフ倶楽部(54H)、山代ゴルフ場(旧西コース・36H)の食堂支配人を職としてシーズン中は仕事に追われる毎日で。オフになって上京し、同級生の人々に会えることが楽しみです。こうして遠く離れて卒業後長い歳月が経っても、松下君という友の思いやりでこうして皆に接することが出来るのです。



新幹事(22名)誕生

本年(平成3年3月)卒業予定 486名11クラス、規約通り各科各組2名づつ(22名)の新幹事が下記の通り誕生しましたので紹介します。今後同窓会の幹となつてご協力下さる事を期待します。

記

機械科・A	小 俣 進	・	田 中 智 也
B	青 山 祐 一	・	梅 田 朋 之
C	坂 場 努	・	中 本 貴 志
D	菱 沼 良 一	・	松 崎 弘 史
電気科・A	広 沢 雅 也	・	山 崎 元 裕
B	佐 々 木 努	・	深 川 剛
商業科・A	滝 沢 誠 二	・	東 条 晃 一
B	傳 辰 也	・	森 野 滋
C	中 山 博 一	・	中 山 義 則
D	鈴 木 稔	・	橋 本 勲
普通科・A	上 田 信 雄	・	園 出 昭 彦

庭に託して



昭和34年卒 C-A組

三 橋 守

一、池に月

夢窓疎石1327年開山の鎌倉端泉寺庭園は、一見したところ、変な庭です。ラフ・スケッチしておきます。

北から西に下つた山裾を垂直に切り崩し、縦、横、奥行き4米程の洞窟が在ります。見学者は北西に向いあるので、窟が東南に開いていることになり、中に座禅石が(池に近く)置かれています。

そして、窟の前に池が在ります。北西に8米程の長さの瓢箪池です。窟は大きい北側の池に接していますが、池水が窟前部に注ぎ込んで、そこに、もう一つ小さい池が設るという造りになっております。

ところで、この池庭一体は鎌倉石の岩盤から成り、洞窟を掘つても支え物がありません。

さて、北側の池に、その鎌倉石で出来た、周囲がゴツゴツとした、頂上部が平らな中島があり、池の北端から3米位、窟から6米程北に枯れ滝があります。池から先、山上は立入禁止で確認できませんが、山水を集めて(又は湧泉)滝として落し、池に注ぐ浅く穿った水路も設ります。けれども、小池でもあり、静かさを尊ぶ禅寺なので、往時でも、ちよろちよろと落水し、中島のある池に流れていたと想つてよく、また滝と洞窟の中間に、浅く穿った小洞窟が岩盤の少し上方にあります。

次に、瓢箪池の間に橋が架り、渡ると、一寸離れた左(西)にも橋が設ります。はじめの橋を渡ると、右手には窟があるわけですが、その間は鎌倉石がぐつと盛り上り、双方を遮っています。

この二つの丸木橋は650年以上も経つので、当然替えられています。あと池庭部で、地震、修復を考慮しても、著しい変造はなかったと思われます。

二つ目の橋を渡ると、岩盤を削つた石段から裏山の頂に達しますが、疎石は1328年ここに偏界一覽亭(四方を見まわせるあづまや)を創っています。その翌年清拙正澄は「一洞の西略村(丸木橋)を空に横たえ、風燈(風の当る石段)委蛇盤回(うねり曲つて巡る事)十八曲にして絶頂」に至ると記しています。かなりきつい山道で、一覽亭からの眺望はよかつただろうと想われます。

以上が端泉寺庭園のスケッチです。ここの池庭は一山

全体の前景を成しているのですが、不思議なことがあります。前述の如く橋を渡っても窟には入れません。窟には、池の中から入り込むか、水路を越え岩盤に身をすり寄せてでもしないと、入れません。

四十代の中葉、今日こそこれを解明してやろうと、よく晴れた日に訪ねました。

と、池水に陽が当り、窟の天井に反射しているのに気づき、私はいい知れない感動を覚えた。

疎石は満月をうつすために池を掘ったのだと思います。窟には入れず、座禅石に坐れないのですから、そこに坐ると、見学者は想像するのです、すると、その人は満月を映す水面をみることになります。

二、詩と庭

釈尊出家の動機に就いて、四門出遊というエピソードがありますが、これにまつわる話にも、もう一つあります。

柳田聖山氏によると、「浄居天ガシッダルタ太子（釈尊の太子時代の名）に出家をすすめる為に、王宮の窓扉の外で待機する」という話ですが、夢窓と同世代の大燈にこの話を題材にした詩があります。

（漢詩書き下しと解釈は柳田氏による。）

玉函の月を鑑すは、秋を期らず、
夜静かにして方に知る波浪の別なることを、
此に相い逢うてより、路の迷うに似て、
崖巖たる檀特は、硬きこと鉄の如し。

（崖巖一石や岩のごろごろした山。檀特一インドのガンダーラにある檀特山。）

玉函は玉のように澄んだ池である。マガダ王宮の内、広く深くたたえた池水に玉のような満月が影を下している。特に中秋の夜とは限らぬが、静かなその夜の池の水は、他の夜のそれとは全く異なるものがある。ひとたび浄居天のひそかなささやきを耳にした太子は、何の不自由もない平和な生活に、われとわれより疑いを持ちはじめ。穏かならぬ情念に迫られるように、嵯峨たる檀特山に入ることを決意した太子の心は、まさに鉄のように堅く鋭い。

大燈は釈尊出家の動機を詩化したものですが、夢窓はこの話を庭で造形化しました。

先づ、洞窟を掘って王宮とし、窟前部に池水を注ぎ入れて玉函を設け、太子が玉函に映る満月をみていた所に石を置きました。

そして浄居天のひそかなささやきを滝の音で表現してから、水路を経て池に注ぎ込んだところに中島を造って檀特山とし、浄居天が待機する所を小洞窟で造形化しました。

つづいて、太子は王宮から出門しますが、王宮からの

出口という意味で橋を架け（疎石は王宮の門にはおぼろぎがあると考えていたフシがありますが、ここでは省略します）、(多分) ガンジス河を渡るという意味でまた橋を設けました。橋(門)を渡ったところと窟(王宮)の間を遡るように鎌倉石を盛り上げたのは、目的達成までは帰城しないという太子の出家決意の堅さの造形化と考えられます。

石段を造り、わざわざきつい山道を造って檀特山(中島は、太子が入山することを決意した山。石段からの山はそれを具体化したもの)としました。

洞窟を王宮とすれば容易には入れず、私の疑問も水解します。次に座禅石です。月をみている段階では、太子は未だ出家しておらず、太子が座禅した石とするのは理に合いません。が、これを太子が月をみていた所としますと、納得できます。

滝と水路、小洞窟は問題ないと思いますが、中島に疑問が生ずると思います。頂上部が平らで、これを嵯峨たる檀特と見るには無理があります。しかし、中島を高くすると、見学者に玉函が見え難くなり、太子が月をみると、想像できなくなります。ここは、橋を渡る——出門と係って、この庭のポイントです。

夢窓は窟に対向した池の近くで、玉函の月をまぶたに浮かべ、滝音—浄居天の秘かなささやきを聞きとってしまい、太子になり切ってしまうのです。それから、彼は橋を渡る、と言う事は太子が出門するという事になり、従って窟(王宮)の出入りはできなくともよいことになります。そして、石段を登る、つまり入山(修行)することになります。

夢窓は偏界一覽亭と題して、

天尺地(少しの土地)を封じて帰休を許す、
遠きを致し深きを鉤して自由を得たり、
此(一覽亭)に到りて人々眼皮綻ぶ、
河沙(ガンジス河)の風物我罵んぞ瘦さん。

と言っています。問題は2行目、はるかなる昔、遠い異国の一太子の出家決意と出門、入山(修行)を鉤する(さぐる)自由を得たと、解釈できないでしょうか。

夢窓はその仏教(禅)の源を釈尊に求め、その理想を庭に托したのだ。彼晩年の天龍寺と苔寺の庭は、基本的にはこの延長線上にあると思います。



卒業生出会シリーズ②

民主主義が 世界を変える時

それは昭和19年2月初旬であった。寒さも最高に達した夜明の3時頃「非常呼集!!」のドナリ声で目が覚めた。毛布下が一枚、上が二枚板の間の馬小屋で寝ていた中学2年全員が起こされた。あわてて整列した彼であった。「これから全員で赤白合戦をやる!!」三級先輩の大隊長の厳しい顔が印象的であった。

(これは決して雪合戦ではない。赤組と白組に分かれ、お互いの暗号を使い相手の敵を何人捕虜にするかである。たとえば「熊」と赤組が決めれば、白組は「幕」とする方法である。)

それだけでは問題は何もなかったのであった。15歳の少年達は楽しい遠足もない中学時代であった。親も一週間留守にする子供達にお菓子の一つや二つは持たしたに違いない。

富士山の裾野は真冬の夜空は綺麗だった。星の灯りで知らない夜道である草原をクマ……マクと呼びながら約2時間、やがて宿舎にもどった彼達である。それからが事件の初まりである。全員整列を待ちわびた大隊長が、開口一番「今、行軍中にセンバイを食ったヤツがいた。誰だ/前に出ろ!!」これはヤバイ。静かな高原にその音は100倍にもなって響くに違いない。再三の要求にも誰も名告らない彼等であった。業をにやした大隊長はついに彼の名前を呼んだ。「小隊長、貴様の責任だ」「足を開け。目をつぶれ」そのとたん皮のスリッパで往復ビンタであった。彼は後悔していた。何んで射撃班などに入ってしまったのかと。学校の鬼将軍(故宮野先生)と言われた人でさえ「お前だけは殴る気になれない」と言われていた彼であった。大隊長は射撃班に入っている様にすめた先輩であった。

当時は軍国主義が学校まで入り込んだ教育方針のようであった。当班だけはやたらと後輩を殴っていたものであった。やがて彼も4年生になり後輩を殴る番がやってきたが、彼は殴る気がしない。「自分達で勝手にヤレ」とその時のアイデアで、対向ビンタと言うものを考え出した彼であった。すなわち2人相向かい気にくわない同志が殴る方法である。彼には手も痛くなくて済むと喜んでいた彼であった。

昭和21年春、校舎のない学校を卒業した彼であった。学生服のまま就職試験にのぞんだ運命の日を彼は知る

よしもない時が待っていた。同年4月1日勇んで会社(昭和電工株式会社川崎工場)に出勤した初めての朝、人事担当に連れられた彼は、神妙に「今日からお世話になります〇〇〇です」と深々と頭を下げて、顔を上げたトタン息が止まった思いがした。そこにあの大隊長の先輩がいるではないか?彼の脳裡にはまたここであの悪夢が始まるのかと思うと足が凍っている彼であった。

民主主義に変わっていた日本が人を変えていたことを、彼は忘れていたのであった。

配役 大隊長 第19期卒業生 吉浜 照治
(現社会党员)
彼 第22期卒業生 井上 実

さようなら!! 田村



第16期卒 青木 茂夫

私たちの忘れられない日、12月8日、くしくも「田村」の追悼会になろうとは、思ってもみなかった。

この会合は、田村の生前の発案で、同窓の「村松」の叙勲の祝いとしてであった。それが11月1日突然彼の死によって、悲嘆のうちに予約を取り消した。ところが、彼の賑やかな人間性を尊重して、やるべきだ。との発言があつて、再び開くことにした。彼の提案から、大体2ヶ月のこの日であった。

想えば彼はよく言っていた。「我々はもう歳だ、みんな集ろう」と。しばらく中断していた同窓会の復活を提言した。手始めに取りあえず有志を集めて「カラオケ」会を横浜で開いた。10人が集って盛会だった。

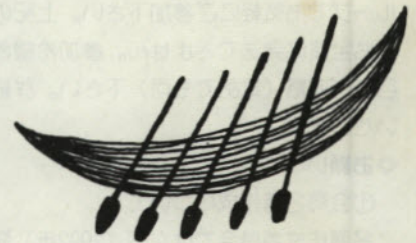
そして明る年いよいよ同窓会開催の準備に入って、しばしば打合会を召集した。彼は非常な熱意をもって対処する、実に行動的である。6月23日中華街揚州飯店で理事長ご夫妻の出席を得て同勢19人賑やかに実行した。

彼の当日の振舞いは誠に水を得て実にあざやかであった。余勢をかって12月8日の集りとなったが、この会が彼の追悼会と変わった。そんな実績を残して彼は永い旅に出た。痛恨の極みである。(12月記)

同窓会の歩み

- 昭和3年3月 同窓会(昼間部)結成
初代会長 山田千太郎
- 昭和4年3月 蛭窓会(夜間部)結成
初代会長 常松菅晴
- 昭和36年2月 五葉会(専門学校)結成
初代会長 後藤光明
- 昭和45年11月 同窓会会則変更
村松浜代第2代目会長誕生
- 昭和47年10月 第1版同窓会会員名簿発行
- 昭和55年9月 山田千太郎元会長逝去
- 昭和56年11月 同窓会総代会開催 於:体育館
- 昭和57年1月 新年会 於:蒲田太子苑
7月 定期総会 於:体育館
9月 「同窓会杯」贈母校体育祭
10月 第2版同窓会会員名簿発行
11月 母校創立60周年記念
合同同期会 於:体育館
- 昭和58年1月 新年会(最終土曜日に決定)
於:蒲田満平
7月 定期総会 於:食堂
8月 第1回 懇親旅行
(山中湖学寮 1泊2日)
12月 蛭窓会(夜間部)五葉会(専門学校)と
同窓会(昼間部)一体化し東実同窓会誕生す。
- 昭和59年1月 新年会 於:武蔵新田喜久美
7月 定期総会 於:体育館
9月 第2回 懇親旅行
(山中湖学寮 1泊2日)
- 昭和60年1月 新年会 於:蒲田弘城
9月 第3回 懇親旅行
(山中湖学寮 1泊2日)
11月 定期総会 於:食堂
「同窓会旗」誕生
- 昭和61年1月 新年会 於:銀座ライオン
9月 第4回 懇親旅行
(山中湖学寮 1泊2日)
9月 定期総会 於:食堂
- 昭和62年1月 新年会 於:銀座ライオン
6月 常松菅晴蛭窓会長逝去
9月 第5回 懇親旅行
(山中湖学寮 1泊2日)
10月 定期総会 於:体育館

- 第3版 同窓会会員名簿発行
- 昭和63年1月 新年会 於:銀座ライオン
9月 第6回 懇親旅行
(湯ヶ原 万葉荘 1泊2日)
11月 定期総会 於:食堂
- 平成元年1月 新年会 於:銀座ライオン
7月 定期総会 於:大森東急イン
9月 第7回 懇親旅行
(湯ヶ原 南明園 1泊2日)
- 平成2年1月 新年会 於:銀座ライオン
6月 定期総会 於:大森東急イン
「同窓会報」創刊号発行す。
9月 第8回 懇親旅行
(熱海 ホテルサン三橋1泊)
- 平成3年1月 新年会 於:銀座ライオン



同窓会・この一年

- 4月11日 平成2年度入学式 於:体育館
- 5月14日 会報編集委員会 於:法人室
- 6月1日 常任幹事会 於:会議室
16日 定期総会 於:大森東急イン
23日 姉妹校同窓会総会 於:東京高校
- 7月10日 会報編集委員会 於:法人室
- 8月18日 常任幹事会 於:会議室
- 9月8日 懇親旅行 一泊二日 於:熱海
9日 ホテル・サン三橋
18日 会報編集委員会 於:法人室
- 10月23日 体育祭 於:大井競技場
- 11月3日 文化祭「同窓会の部屋」 於:母校
16日 会報編集委員会 於:法人室
- 12月13日 常任幹事会 於:蒲田芳苞
18日 会報編集委員会 於:法人室
- 1月8日 新年顔合せ 於:会議室
26日 新年会 於:銀座ライオン
29日 新幹事と常任幹事との懇談会 於:会議室
- 2月1日 「同窓会報」第2号発刊
- 3月3日 平成2年度卒業式参加 於:体育館

事務局だより

卒業生の皆様、益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。皆様のご援助と、ご協力により、無事第1号に引き続き第2号の発行の運びとなりました。この欄は、事務局よりのお知らせ、お願い、連絡事項等を記載致します。

◆お知らせ◆

本年度の三大大事は下記の予定です。

- ①定期総会：日時：平成3年6月23日(日)午後4時
会場：大森東急イン・参加費8千円
- ②懇親旅行：日時・行先・参加費等未定
例年9月第一の土・日か日・月一泊
- ③新年会：平成4年1月25日(土) 午後6時
会場・会費等未定

どなたでも参加できます。お友達を誘って、またグループでお気軽にご参加下さい。上記のご案内状はとも全員に発送できません。参加希望される方はお早目にご連絡(電話でも可)下さい。詳細案内状を発送いたします。

◆お願い◆

①会員名簿作成について

名簿作成委員会では次回(1992年)発行の会員名簿作成の準備にとりかかっております。「一人でも多く、正確な住所を！」

クラス会の係・幹事の方は、自分のクラス、グループの住所等コピーを一部事務局へ

②終身会費の納入について

本会の活動をより活発にする為に終身会費の納入にご協力下さい。なお納入された方には会報を送付させていただきます。

振込方法：全国郵便局

振込先：東京6-56316 東京実業高校同窓会

振込金額：¥10,000(但し、従来の年会費納入者は¥5,000でも可)

③「同窓会報」投稿について

投稿は、卒業生どなたでも、いつでも結構です。お急ぎでない原稿は、適時に次号にお載せ致します。どのような記事でも(当校に対する希望等でも)、また自営・営業されている方は、会報の広告欄をご利用下さい。東実同窓生同志！何らかの効果は期待できると思います。

④事務局からの連絡文章には、期限内に必ずお返事を下さる様お願いします。

◆連絡事項◆

①会員名簿(第3版)'87年版が出来ており多少の在庫があります。ご希望の方は事務局宛にお申込み下さい。

②母校・事務局にFAXが入っております

03-3732-4456 ご利用下さい。

③各期・各クラスの集会等、催しがありましたら事務局にもご一報下さい。

④事務局では、同窓会全般に協力して下さる方を探しております。有志の方はご連絡下さい。



東京実業同窓会会員総数

平成3年4月現在予定
(): 女子

会員総数		商業系	工業系	普通系
23,914 (2,522)		11,782 (2,522)	11,672 (2)	460
内	昼間部(同窓会) (大. 15~平. 3)	19,688 (2,382)	9,427 (2,382)	9,801 460
	夜間部(望窓会) (昭. 4~昭. 52)	3,586 (228)	2,223 (228)	1,363
訳	専門学校(五葉会) (昭. 35~昭4.48)	640 (2)	132 (2)	508 (2)

◎平成3年3月卒業予定数 486名

(商業系: 187 工業系<機械>179+<電気>80=259 普通系: 40)

事務局に連絡の入った訃報

- 16C 田村 信行 29C 白銀 睦
 - 31C 田中 実 31C 鶴見 敏一
 - 34G 奥村(隅部)若美 34G 岸田(石川)亮子
- ご冥福をお祈り申し上げます。

発信します素敵な暮らし

不二勢

サンカマタ・パリオ
FUJISE
フジセグループ

〒144 東京都大田区西蒲田7-68-1-Y8 TEL. 738-7251(代表)



ORIGINAL FOOD

オリジナルケーキとティーサロン



アルペリ本店

横浜市鶴見区豊岡町 7-14
TEL (045) 581-5441代 社長 山本徳太郎
全機庵製菓株式会社 (昭23.3.商卒)

日本の旅・世界の旅

いつまでも心にのこるいい旅を

日交観トラベル



TEL 03-5479-5471(代表)
株日交観トラベル 大井町支店

所長 柿崎繁治(昭31.3.商卒)

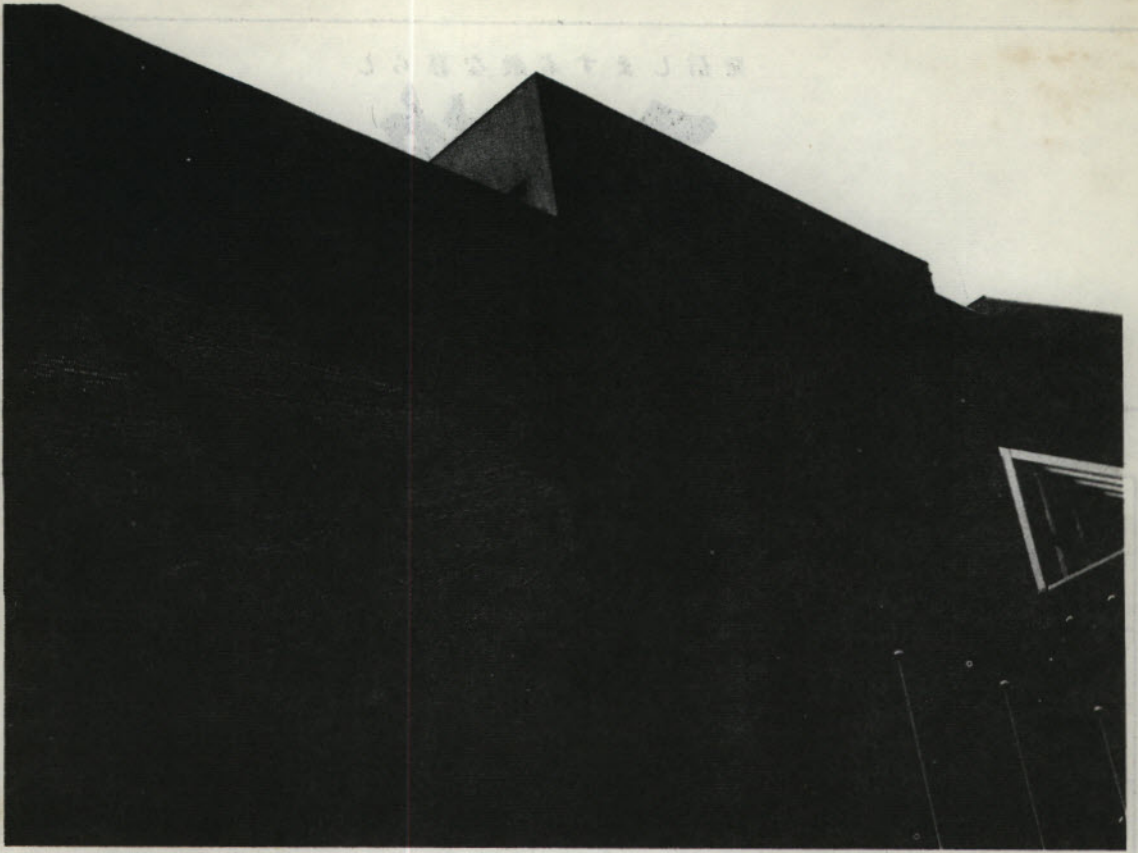
記念品、贈答品、バッチ、トロフィー
カップ、楯、旗、各種印刷物、製造卸

有限会社 荒木トロフィー

〒210 川崎市川崎区中島 3-9-1
TEL (044) 244-1797代
FAX (044) 245-1688

代表取締役 荒木関 章 (昭36.3.機卒)





編集後記

新報第2号をお届け致します。

第1号発刊より早くも半年余りの時が過ぎた今、2号
だより編集会議で、編集部員一同大いに原稿とりに悩み
ました。

「五月のしょうぶ六月のあやめ」と世によく言われま
すが、初刊より季節の花も、梅・桜・躑躅・菖蒲・紫陽
花・藤・沈丁花次いで山茶花と移り変わり、同じく人にも
一時の花・当座の花と推移してしまいました。

全くあの人彼の人と原稿とり(鳥)を追い、またしても

すっかり時が流れてしまったことをお詫びいたします。

北京の朝霞の街角で駕籠を並べ、ホア鳥の悠々とさえず
りを待つ人々の境地にはなれないようです。

今後も一人でも多くの会員の原稿を頂き、各分野から
の内容も色々に掲載したいと思いますから、遅ければせ
でも結構ですから、沢山のご投稿をお待ち致しておりま
す。

なお、当刊紙のためにご協力下さいました先生方はじ
め、会員の皆様方本当に有難うございました。

編集委員長 村松 濱代(17期)

同 委員 青木 茂夫(16期)

” 井上 實(22期)

” 松下 光夫(31期)

” 本田位公子(34期)

” 米田 仁昌(学校)

